

2019年度 前期企画展

自分史上、
想像以上!

「流転の海」展

「流転の海」シリーズ完結記念企画(前編)

2019.

4.9<sup>T
U
E</sup> — 9.13<sup>F
R
I</sup>

授業期

[開館時間] 9:20-18:10(月~金) [休館日] 土曜・日曜・祝日
※4/29(月祝)、4/30(火祝)、5/2(木祝)、5/3(金祝)、5/6(月懸休)、7/15(月祝)は開館します。

学休期 [8/4日~9/13日]

[開館時間] 9:20-18:00(月~金)
[休館日] 土曜・日曜・祝日、8/10日~8/18日

※詳しくは図書館HPでご確認いただくか、直接図書館にお問い合わせください。

主催: 追手門学院大学附属図書館宮本輝ミュージアム

後援: 茨木市、茨木市教育委員会、茨木商工会議所、茨木市観光協会

「流転の海」展

「流転の海」シリーズ(完結記念企画(前編))

二〇一八年度に刊行された「野の春」をもって、宮本輝が三十七年もの間、管々と書き続けた「流転の海」シリーズが、全九巻で完結しました。自らの父をモデルにしたこの自伝的シリーズの完結は、一人の作家の偉業であるとともに、日本文学の高い到達点として、各界からさまざまな形で顕彰されています。例えばつい最近では、宮本輝が第六〇回毎日芸術賞を受賞しました。「毎日新聞」の「毎日芸術賞の人々1」（二〇一九年一月七日）には、宮本輝の「大仕事を終えた気持ちです。受賞は書き上げたことへの『ご苦労さん』という、ご褒美だと受け止めます」という喜びの言葉が紹介されています。

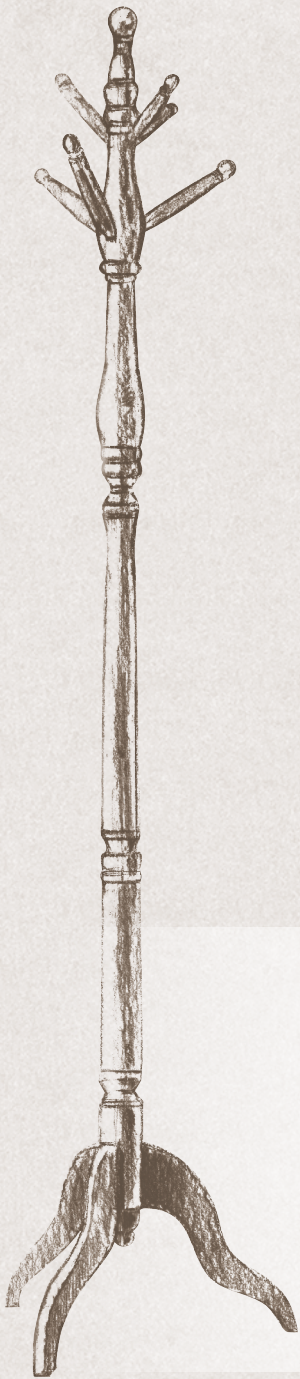
一昨年と昨年には、富山(高志の国文学館)と姫路(姫路文学館)で、特別展「宮本輝 人間のあたたかさ、生きる勇氣と。」が開催されました。また、昨年十一月五日には、「流転の海」シリーズの出版記念パーティーが、帝国ホテル東京で開催されました。

我が宮本輝ミュージアムでも、この大作の完成を祝い、これを記念する展示を行うことにしました。

ご高覧を心よりお待ちしております。

宮本輝ミュージアム プログラムディレクター

真銅 正宏



展示内容

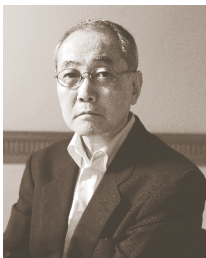
- 「流転の海」シリーズ 作品紹介
- 作品の直筆原稿
- 登場人物紹介パネル
- 記念撮影コーナー

展示作品

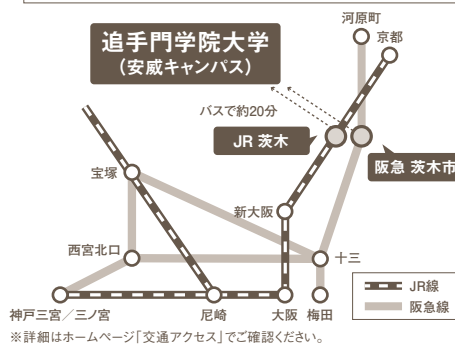
- ① 「流転の海」(流転の海 第一部)
福武書店 1984年7月
- ② 「地の星」(流転の海 第二部)
新潮社 1992年11月
- ③ 「血脈の火」(流転の海 第三部)
新潮社 1996年9月
- ④ 「天の夜曲」(流転の海 第四部)
新潮社 2002年6月
- ⑤ 「花の回廊」(流転の海 第五部)
新潮社 2007年7月
- ⑥ 「慈雨の音」(流転の海 第六部)
新潮社 2011年8月
- ⑦ 「満月の道」(流転の海 第七部)
新潮社 2014年4月
- ⑧ 「長流の畔」(流転の海 第八部)
新潮社 2016年6月
- ⑨ 「野の春」(流転の海 第九部)
新潮社 2018年10月

宮本輝ミュージアムについて

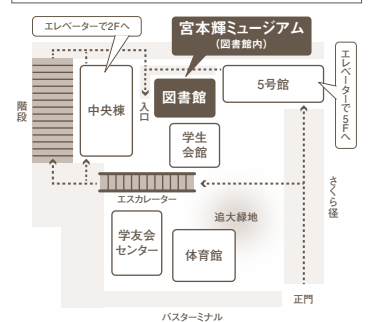
宮本輝ミュージアムは、追手門学院大学第1期生で現在も活躍する作家・宮本輝氏とその作品を紹介する場として、2005年5月追手門学院大学附属図書館内に開設しました。宮本輝氏の直筆原稿や、愛用品などを常設展示しているほか、作品をより深く感じていただけるよう、舞台背景の紹介や作品の魅力を伝える展示物などさまざまな角度から掘り下げた企画展を年2回開催しています。



アクセス(路線図)



安威キャンパスマップ



宮本輝ミュージアム(追手門学院大学附属図書館内)

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 [開館時間] 図書館開館時間に準ずる。
TEL: 072-641-9638 FAX: 072-643-9786 ※詳しくはホームページでご確認ください。
URL: (附属図書館) <http://www.oulib.otemon.ac.jp/>
(宮本輝ミュージアム) <http://www.oulib.otemon.ac.jp/teru/index.html>



おとうもん
追手門学院大学

URL: <https://www.otemon.ac.jp/>